

産業技術学園 介護職員初任者研修 情報公開

研修機関情報	法人情報 <ul style="list-style-type: none">● 学校法人 産業技術学園 〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-1 Tel 0123-39-6666● 理事長 宮川藤一郎● 事業所名：北海道ハイテクノロジー専門学校 〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-1 Tel 0123-39-6666● 学園理念：職業人教育を通して社会に貢献する● 施設設備：教室数1 実習室1
研修事業情報	研修の概要 <ul style="list-style-type: none">● 対象：本校 子ども・こころ学科の在校生● 研修のスケジュール期間：8か月 時間数：144時間数● 定員：集合研修、実習ともに40名 指導者数：14名● 研修受講までの流れ（募集、申し込み）別紙● 費用：授業料より充当
課程責任者	● 課程編成責任者名：北海道ハイテクノロジー専門学校 子ども・こころ学科 学科長 佐藤慶知
研修カリキュラム （通信）	● 科目別シラバス：別紙
修了評価	● 科目別時間数：別紙 ● 科目別担当教官名：別紙 ● 科目別特徴 演習の場合は、実技内容・備品、指導体制
実習施設 （実習を行う場合）	● 修了評価の方法：評価者、再履修等の基準 別紙 なし
講師情報	● 名前 ● 資格、担当科目 別紙
実績情報	● 過去の研修実施回数 平成26年度 2回 平成27年度 1回 ● 過去の研修延べ参加人数 平成26年度 69名 平成27年度 29名
連絡先等	● 申し込み・資料請求 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 広報室 Tel 0120-8119-17 ● 法人の苦情対応者 ● 事業所の苦情対応者名 学校法人 産業技術学園 コンプライアンス室 室長 田辺 敦 Tel 0123-36-8119 Mail: atanabe@hht.ac.jp

学 則（細則）

1 研修目的
介護職員の養成をはかり、高齢社会への対応の一助とする。

2 研修の名称
介護職員初任者研修

3 研修の要旨

(1) 所在地等

事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修期間	定員(人)	受講料(円)	受講対象者
恵庭市	平日昼間	1年	8か月	40	授業料より充当	子ども・こころ学科 在校生

(2) 研修会場

本校第5校舎 恵庭市恵み野西5丁目10-1

第3校舎 恵庭市恵み野北2丁目12-1 において行う。

4 受講手続

(1) 募集時期

原則、全員必修のため改めて募集は行わない。ただし入学時において既に資格を有するものは除く。

(2) 受講料の納入方法

授業料の納入時に納入し、研修へ充当。

(3) 費用の返納

納入された学費については返納しない。

5 カリキュラム

研修時間数は別紙1の通りとする。

6 研修の免除

なし

7 主要テキスト

「介護職員 初任者研修テキスト」 一般財団法人 長寿社会開発センター編

8 修了認定

(1) 出欠の確認方法

各教科の開始前に教科の担当教員が出欠確認を行なう。遅刻及び早退については出席とは認めない。

(2) 成績の評定方法

全科目終了後に知識面についての筆記試験と技術面における評価を行なう。

技術面については、科目9において、担当教員により、技術・知識の習得状況を評価するものとし、合格に満たないものは補講（項目を単位）を行い再評価する。

技術面の評価に合格したものについて、知識面についての筆記試験をおこなう。

筆記試験については、正答率60%以上の者を合格とするが、1科目でも無得点の場合は不合格とする。不合格となったものについては、合格基準に達するまで再試験を行なう。

(3) 修了認定方法

研修教科のすべてに出席し、評価試験に合格したものとする。

(4) 修了証明書

修了が認定された者には、別紙2の修了証明書を卒業時に交付する。ただし、研修終了後やむを得ず退学せざるを得ない場合については、退学時に交付する。尚、証明書については紛失等により、本人の申し出により再交付を行う場合は、本人について、公的証明証により本人確認し、写しを保存し交付するものとする。

(5) 補講の取り扱い

やむをえない事由により出席時間数が不足した場合は、不足した各項目毎に補講等を行い、規定の出席時間数を補ったと認められる場合のみ認定する。なお、補講許可する上限時間数は全出席時間数の2割以下とする。

9 講師 別添

10 退学規定

本校の退学規定を適用する。

- ・法令又は学則・校則に反する行為又は交通事犯、若しくは学生としてあるまじき行為があったと認められるとき。

11 情報の開示

本要綱については本校のホームページ上で開示するものとする。

12 その他

介護職員初任者研修カリキュラム（シラバス）

<p>1 職務の理解（7.5 時間）</p> <p>・到達目標・評価の基準</p> <p>研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事をおこなうのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。</p>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
<p>① 様々なサービスと理解</p> <p style="text-align: center;">高島 徹</p>	3 時間	<p>（講義・演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。
<p>② 介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <p style="text-align: center;">高島 徹</p>	4.5 時間	<p>（講義）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材及び見学実習を通して理解を深める。 ・ケアプランに始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。 ・{実習（見学）} 隣接の老人ホームを見学し、具体的なイメージを持って各科目に取り組めるようにする。
合計	7.5	
<p>2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）</p> <p>・到達目標・評価の基準</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。</p> <p>・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。</p> <p>・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。</p>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
<p>① 人権と尊厳を支える介護</p> <p style="text-align: center;">松井 靖</p>	6 時間	<p>（講義・演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権・尊厳についての具体的事例を複数示し人権とはいかなるものであり、介護を必要とする人が有する権利とは何かを理解する。 ・介護に関する基本的な視点（ICF, QOL, ノーマライゼーション）について理解する。 ・利用者の権利擁護の為に制度の種類や内容について理解する。
<p>② 自立に向けた介護</p> <p style="text-align: center;">松井 靖</p>	3 時間	<p>（講義・演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立とは何かを学び、「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方を学び、介護予防事業についても理解する。
合計	9	

3 介護の基本（ 6時間）

・到達目標評価の基準

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。

・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。

・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。

・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。

・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点についてポイントを列挙できる。

・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

・介護職に起こりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、 専門性と多職種との連携 高島 徹	1.5 時間	(講義) ・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を理解する。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものは何かを理解する。 ・多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
②介護職の職業倫理 高島 徹	1.5 時間	(講義・演習) ・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解し、利用者のプライバシーの保護・尊重、介護職としての社会的責任について理解する。
③介護における安全の確保と リスクマネジメント 高島 徹	1.5 時間	(講義) ・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶとともに、さまざまな対策（転倒及び転落・誤嚥・誤薬・防火、防災・消費者被害・感染対策）について理解する。
④介護職の安全 高島 徹	1.5 時間	(講義) ・介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康が介護の質に重要な意味を持つことを学び、健康管理の必要性について学ぶ。 ・介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について理解する。 ・介護者自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

- ・到達目標・評価の基準
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや 地域支援の役割について列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度 松井 靖	4.5 時間	(講義) <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について理解する。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について理解する。
②医療との連携と リハビリテーション 今井 庸子	1.5 時間	(講義) <ul style="list-style-type: none"> ・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。
③障害者総合支援制度 およびその他制度 松井 靖	3 時間	(講義・演習) <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度における障害者の概念について、その歴史を踏まえて学ぶ。 ・障害者総合支援法制度の基本的な仕組みについて理解し、併せて個人の権利を守る制度も理解する
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

- ・到達目標・評価の基準
- ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人一人異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。
- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護における コミュニケーション 伊藤 宏二	3時間	(講義・演習) ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
② 介護におけるチームの コミュニケーション 伊藤 宏二	3時間	(講義・演習) ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点を学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について理解する。
合計	6	

6 老化の理解（6時間）

- ・到達目標・評価の基準
- ・加齢老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
- ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面、などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
- ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴および治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴う こころとからだの変化と日常 慶心会	3時間	(講義・演習) ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
②高齢者と健康 今井 庸子	3時間	(講義) ・高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
合計	6	

7 認知症の理解(6時間)

- ・到達目標・評価の基準
- ・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。
- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動の・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
- ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（よい関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受け入れやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況 慶心会	1.5時間	(講義) ・「認知症を中心としたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。
②医学的側面から見た 認知症の基礎と健康管理 今井 庸子	1.5時間	(講義) ・老化の仕組みと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状を持つ疾病について理解する。 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。
③認知症に伴うこころとからだの 変化と日常生活 慶心会	1.5時間	(講義) ・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る始点を持つことについても理解する。
④家族への支援 慶心会	1.5時間	(講義・演習) ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
合計	6	

8 障害の理解(4.5時間)

(到達目標・評価の基準)

- ・ 障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
- ・ 障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。

障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解 伊藤 宏二	1.5時間	(講義・演習) ・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・国際生活機能分類 (ICF) に基づきながら「障害」の概念を学ぶ。 ・障害者福祉の基本理念 (ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン) について学ぶ。
②障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかり支援等の基礎知識 伊藤 宏二	1.5時間	(講義) ・障害の原因となる主な疾患を学ぶ。 ・障害に伴う心理的影響、障害の受容を学ぶ。 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。
③家族の心理、 かかり支援の理解 高崎 剛	1.5時間	(講義・演習) ・ 家族支援は、家族介護の肩代わり支援ではないことを学ぶ。 ・ わが国に、求められるレスパイトサービスの課題について学ぶ。
合計	4.5	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（78時間）

（到達目標・評価の基準）

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助者の介護が実施できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

Ⅰ 基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的考え方 慶心会	4.5時間	(講義・演習) ・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて学ぶ。 ・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて学ぶ。
	②介護に関する こころのしくみの 基礎的理解 慶心会	4.5時間	(講義)・学習と記憶に関する基礎的な知識を学ぶ。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を学ぶ。 ・自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的知識を学ぶ。
	③介護に関する からだのしくみの 基礎的理解 慶心会	4.5時間	(講義) ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを学ぶ。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを学ぶ。
Ⅱ 生活支援技術の講義・演習	④生活と家事 今井 庸子	4.5時間	(講義・演習) ・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを学ぶ。 ・家事援助とは何かについて具体的に学ぶ。
	⑤快適な 居住環境整備と介護 今井 庸子	6時間	(講義) ・安心して快適に生活する為に必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。
	⑥整容に関連したこころと からだのしくみと自立に 向けた介護 今井 庸子	6時間	(講義・演習) ・整容の必要性和、関連するこころとからだのしくみを学ぶ。 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行う技術を身につける。
	⑦移動・移乗に関連したこ ころとからだのしくみと 自立に向けた介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・移動・移乗の必要性和、移動・移乗に関連するからだのしくみを学ぶ。 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について学ぶ。

	⑧食事に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを学ぶ。 ・利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。
	⑨入浴・清潔保持に 関連したところと からだのしくみと 自立に向けた介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところと からだのしくみを学ぶ。 ・利用者本人の力を活かし、楽しい入浴の介護を行うための技術を身に につける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について学ぶ。
	⑩排泄に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを学ぶ。 ・利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介護を行うための技術 を身につける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について学ぶ。
	⑪睡眠に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを学ぶ。 ・こちよい安眠を支援するための知識と技術を身につける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について学ぶ。
	⑫死にゆく人に関連した ところとからだのしくみ と終末期介護 佐々木 敬子	6時間	(講義・演習) ・終末期のとらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況にあわせた 対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受 け止め方を学ぶ。
目生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理解 慶心会	6時間	(講義・演習) ・介護過程の目的と意義について学ぶ。 ・介護過程の展開プロセスについて学ぶ。 ・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について学ぶ。
	⑭総合生活支援技術演習 慶心会	6時間	(講義・演習) ・事例を通じて、利用者のところとからだの力が発揮できない要因を分 析する。 ・事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する。 ・事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点に ついて学ぶ。
	合計	78	

10 振り返り（4時間）

（到達目標・評価の基準）

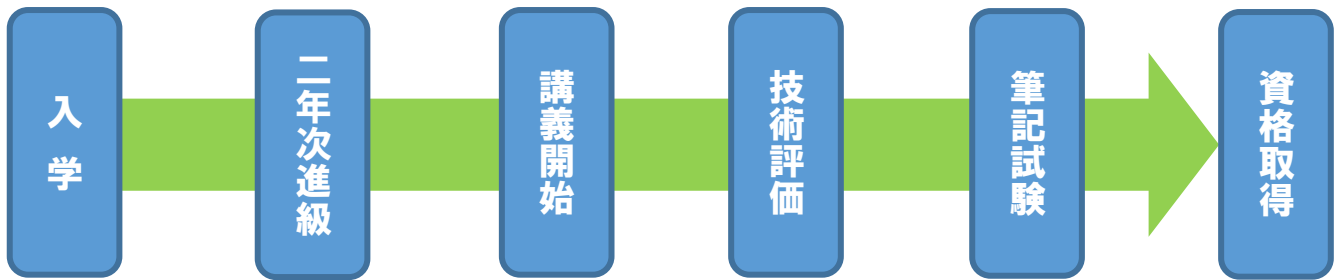
- ・研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り 慶心会	9時間	（講義・演習） ・研修を通して学んだこと、さらには心身の状況に応じた介護の方法を検討し、確かな介護技術を身につけるため根拠に基づいた介護技術を実践し続ける必要性についてことを学ぶ。
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修 慶心会	3時間	（講義） ・職場における研修の形態の種類について学び、それらの研修を通じてより幅の広い領域の専門的な知識と技術の習得の必要性を学ぶ。
合計	12	
全カリキュラム合計時間	144時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

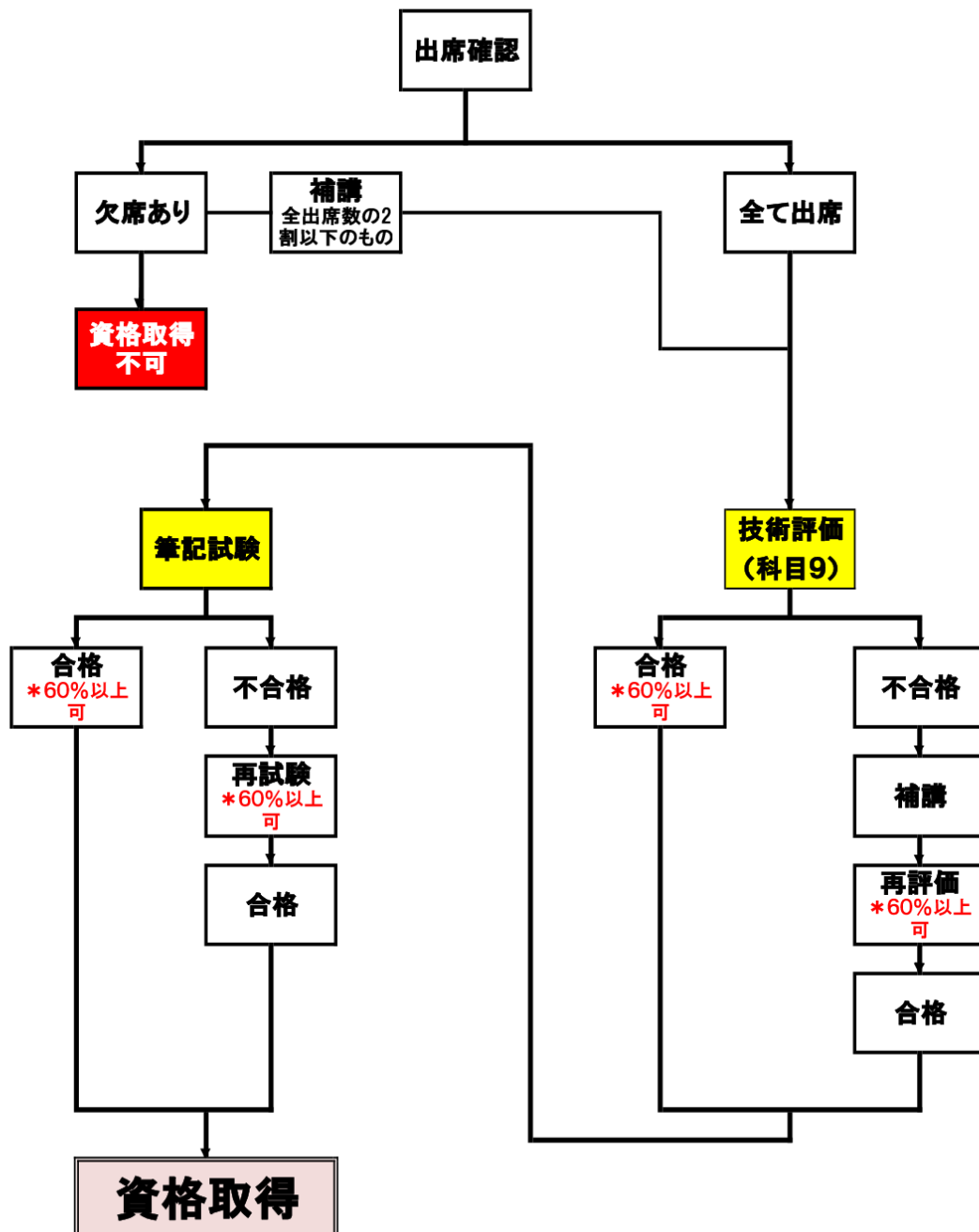
※本研修で独自に追加した科目には、余白に「追加」等の表示をすること。

研修受講までの流れ



修了評価・再履修の基準

介護職員初任者研修 資格取得フローチャート



調書番号	氏名	担当教科	資格名
1	高島 徹	1・職務の理解 3・介護の基本 4-(1)介護保険制度	介護支援専門員
2	松井 靖	2・介護における尊厳の保持・自立支援 4-(1)介護保険制度 4-(3)障害者総合支援制度およびその他の制度 8-(3)・家族の心理、かかわり支援	社会福祉士
3	伊藤 宏二	1・職務の理解 4-(1)介護保険制度 4-(3)障害者総合支援制度およびその他の制度 5・介護におけるコミュニケーション技術 8 障害の理解	
4	佐々木 敬子	4-(2)医療との連携とリハビリテーション 6-(2)高齢者と健康 7-(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10 振り返り	看護師
5	清水 敏博	1・職務の理解 3・介護の基本 7-(1)認知症を取り巻く環境 7-(3)認知症に伴う心とからだの変化と日常生活 7-(4)家族への支援 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10・振り返り	介護福祉士
6	今井 庸子	4-(2)医療との連携とリハビリテーション 6・老化の理解 7・認知症の理解 8・障害の理解 9・こころとからだのしくみと生活支援技術	看護師
7	松本 大幸	1・職務の理解 2・介護における尊厳の保持・自立支援 5・介護におけるコミュニケーション技術 6-(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-(1)認知症を取り巻く環境 7-(3)認知症に伴う心とからだの変化と日常生活 7-(4)家族への支援 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10 振り返り	介護福祉士
8	栗林 和弘	1・職務の理解 3・介護の基本 5・介護におけるコミュニケーション技術	介護福祉士
9	熊谷 利江	1・職務の理解 9・こころとからだのしくみと生活支援技術	介護福祉士
10	横島 完至	5・介護におけるコミュニケーション技術 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10・振り返り	介護福祉士
11	村上 正展	9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10・振り返り	介護福祉士
12	坂下 朋哉	1・職務の理解 2・介護における尊厳の保持・自立支援 3・介護の基本 4-(1)介護保険制度 4-(3)障害者総合支援制度およびその他の制度 5・介護におけるコミュニケーション技術 6-(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-(1)認知症を取り巻く環境 7-(3)認知症に伴う心とからだの変化と日常生活 7-(4)家族への支援 8-(3)・家族の心理、かかわり支援 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10 振り返り	介護福祉士
13	藤田 正崇	1・職務の理解 2・介護における尊厳の保持・自立支援 3・介護の基本 4-(1)介護保険制度 4-(3)障害者総合支援制度およびその他の制度 5・介護におけるコミュニケーション技術 6-(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 7-(1)認知症を取り巻く環境 7-(3)認知症に伴う心とからだの変化と日常生活 7-(4)家族への支援 8-(3)・家族の心理、かかわり支援 9・こころとからだのしくみと生活支援技術 10 振り返り	介護福祉士
14	高崎 剛	7-(4)家族への支援 8-(3)・家族の心理、かかわり支援	精神保健福祉士